

2015年5月13日

株式会社クレディセゾン(8253) 2014年度決算発表

法人領域でのカード獲得と利用促進を強力に推進・ファイナンス事業が堅調に伸長

2014年度は、『クレジットサービス事業』では、提携先企業と共同での会員募集やカード利用活性施策の推進に加え、プリペイドカードの発行やスマートフォン決済など、多様な決済サービスを通じてカード利用シーンの拡大に努めました。この結果、ショッピングセンターやスーパー、コンビニを中心にカード利用が増加し、ショッピング取扱高は前期比 6.1%増加、ショッピングのリボルビング残高は前期末より 10.1%増加と堅調に伸張しました。また、企業における各種決済のキャッシュレス化の実現に向け法人カードの獲得と利用促進を強力に推進し、法人カードの取扱高は前期比 22%増加しました。キャッシングは、継続的な利用活性施策に注力した結果、新規利用者が増加し、キャッシング取扱高は前期比 4.9%増加しました。

ネットビジネスでは、ネット会員との新たなコミュニケーション手段として提供を開始したスマートフォン用アプリ「セゾン Portal」「UC Portal」が開始から 8ヶ月で 50 万ダウンロードを突破するなど、ネットサービスの利用促進により、ネット会員の拡大に取り組みました。

海外事業では、アジア圏内におけるリテール金融ビジネスの基盤づくりを推進しており、ベトナムの銀行で、傘下にベトナム有数のファイナンス会社を持つ Ho Chi Minh Development Joint Stock Bank と資本業務提携し、ベトナムで No.1 の総合リテールファイナンス会社を目指して、共同事業の開始に向けて準備を進めております。

『ファイナンス事業』では、信用保証事業において、資金使途を事業性資金にも広げたフリーローン保証商品の強化を通じて、新たに地域金融機関等 16 先と提携し、提携先数は 382 先へ拡大、保証残高は前期末より 13.9%増加しました。また、長期固定金利型住宅ローン「フラット 35」および不動産投資ニーズに対応した「セゾンの資産形成ローン」では、有力な提携先との連携により、フラット 35 の貸出残高(住宅金融支援機構への債権譲渡済み残高)は前期末より 29.8%増加、資産形成ローン貸出残高は前期末より 112.2%と大幅に増加し、ファイナンス事業全体での営業収益は前期比 19.3%増加しました。

一方、将来に備えた利息返還損失引当金の繰入れや当連結会計年度の繰延税金資産の計算に使用する法定実効税率が変更されたことに伴い繰延税金資産を取り崩した等の結果、**営業収益 2,590 億円(前年比 4.6%増)、営業利益 401 億円(同 10.5%増)、経常利益 436 億円(同 1.6%減)、当期純利益は 126 億円(同 50.6%減)**となりました。当連結会計年度のセグメント別業績概況は次の通りです。

1. 営業概況

(1) クレジットサービス事業

新規カード 237 万枚獲得、稼働会員 38 万人増加により顧客基盤を拡大し、営業収益 1,992 億円(前期比 5.1%増)、営業利益 153 億円(同 4.2%増)。

- ① ショッピング取扱高は 4 兆 893 億円(前期比 6.1%増)、リボルビング残高は 2,949 億円(前期末比 10.1%増)と堅調に伸張しました。
 - ・消費税増税の影響を払拭する提携小売業と連携したカード利用活性プロモーションの推進
 - ・リボルビング払い・ボーナス払いの利用促進、公共料金や通信料金等、継続利用が拡大
 - ・法人カードの獲得・利用促進強化により、法人カードの取扱高は前期比 22%増加
- ② キャッシングは、新規利用者拡大に向けて、カード申込み時のキャッシング枠付与率向上と継続的な利用活性施策に注力した結果、取扱高 2,881 億円(前期比 4.9%増)と着実に増加しました。
- ③ プレミアムカードの「セゾン・アメリカン・エクスプレス®・カード」の中でも特にプラチナ・ゴールドカードや「ウォルマートカードセゾン・アメリカン・エクスプレス®・カード」、「三井ショッピングパークカード《セゾン》」など、提携小売業店舗と一体となった会員募集を推進し、稼働会員数が拡大しました。
- ④ 2014 年 7 月より提供を開始したスマートフォン用アプリ「セゾン Portal」「UC Portal」が 50 万ダウンロードを突破。すきま時間を活用し、簡単にご利用明細の確認や永久不滅ポイント数の確認・交換ができるなど、ネットサービスの利用促進を 図り、ネット会員は 1,121 万人(前期末比 12.6%増)に拡大しました。

(2)リース事業

消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の影響等により、取扱高 1,068 億円(前期比 6.9%減)、営業利益 59 億円(前期比 1.8%減)。

主力提携販売店を中心に販売店の特性に応じた共同キャンペーンの実施や取扱商材の拡充による営業を強化するとともに、適正な与信と債権の健全化に努めました。

(3)ファイナンス事業

提携先との連携強化と資金ニーズに対応した商品の多様化を図り、ノンバンクとして事業基盤を着実に拡大。営業収益 228 億円(前期比 19.3%増)、営業利益 132 億円(同 32.0%増)。

- ① 信用保証事業は、個人事業主などの資金ニーズに対応し、資金使途を事業性にも広げたフリーローン保証商品を通じて、地域金融機関等とのきめ細やかな連携に努めた結果、新たに 16 先と提携し、提携先数 382 先(前期末差 14 先増)、保証残高は 2,620 億円(前期末比 13.9%増)と着実に増加しました。
- ② 長期固定金利住宅ローン「フラット 35」は、取次ぎ店等との営業強化により、住宅金融支援機構への債権譲渡済み残高は 2,838 億円(前期末比 29.8%増)に拡大しました。
- ③ 2013 年より販売を開始した「セゾンの資産形成ローン」は、有力な提携先との連携強化により、実行金額 373 億円(前期比 34.1%増)、貸出残高 677 億円(前期末比 112.2%増)と大幅に拡大しました。

(4)不動産関連事業

積極的な営業展開により、営業収益 130 億円(前期比 3.3%増)、営業利益 45 億円(同 15.8%増)。

連結子会社(株)アトリウムにおいては、不動産市況の回復や積極的な営業活動により、堅調に推移しました。また、整理事業における大型案件の売却や開発案件が確実に進捗しております。

2. 経常利益・純利益概況

良質債権の積み上げ拡大を進める一方、将来に備えた利息返還損失引当金 99 億円を繰入れたほか、開発中の共同基幹システム資産の一部 85 億円を除却し特別損失に計上したことに加え、当連結会計年度の繰延税金資産の計算に使用する法定実効税率が変更されたことに伴い繰延税金資産 66 億円を取り崩した結果、営業収益 2,590 億円(前期比 4.6%増)、営業利益 401 億円(同 10.5%増)、経常利益 436 億円(同 1.6%減)、当期純利益は 126 億円(同 50.6%減)となりました。

3. 次期の見通し

2015 年度通期の個別業績予想は、営業収益 2,300 億円(前期比 4.9%増)、経常利益 460 億円(同 19.6%増)、当期純利益 275 億円(同 143.0%増)を予想しております。

連結の業績は、営業収益 2,680 億円(前期比 3.4%増)、経常利益 545 億円(同 24.8%増)、当期純利益 350 億円(同 177.1%増)を予想しております。

また、次期の配当に関しては、業績予想を踏まえ、当期の配当予定より 1 株 5 円増配とし、1 株 35 円を予定しております。

以上

(ご参考) 2014 年度の単体業績

| | | | |
|------------------|---|------------|-------------------|
| (1)新規カード開拓枚数 | : | 300 万枚 | (前期比 9.4%減) |
| (2)新規カード発行枚数 | : | 237 万枚 | (前期比 6.4%減) |
| (3)カード総会員数 | : | 2,497 万人 | (前期末からの純増数 22 万人) |
| (4)稼働会員数 | : | 1,458 万人 | (前期末からの純増数 38 万人) |
| (5)稼働率 | : | 58.4% | (前期末から 0.3%増) |
| (6)カードショッピング取扱高 | : | 4 兆 893 億円 | (前期比 6.1%増) |
| (7)カードショッピングリボ残高 | : | 2,949 億円 | (前期末比 10.1%増) |
| (8)カードキャッシング取扱高 | : | 2,770 億円 | (前期比 4.9%増) |
| (9)カードキャッシング残高 | : | 2,184 億円 | (前期末比 0.2%減) |
| (10)営業収益 | : | 2,193 億円 | (前期比 6.5%増) |
| (11)経常利益 | : | 384 億円 | (前期比 10.3%増) |
| (12)当期純利益 | : | 113 億円 | (前期比 39.3%減) |